

地理歴史科（世界史B）学習指導案（例）

日時	平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇時限
学年・組	〇〇科 〇年〇組 世界史B選択（〇〇名）
教材	教科書名（出版社名）資料名（出版社名）
指導者	教諭 〇〇 〇〇

1 単元 第14章 二つの世界大戦 1 「第一次世界大戦とロシア革命」

2 単元の目標

- ・20世紀前半の世界の動向と社会の特質について関心を高め、これからの世界を展望しようとしている。
【関心・意欲・態度】
- ・国際社会の変遷の中で21世紀に生きる人類が直面する課題を多面的・多角的に考察し、論述や討論で適切に表現している。
【思考・判断・表現】
- ・「地球世界の課題」に関する適切な主題を設定し、歴史的観点から資料を活用して探究している。
【資料活用の技能】
- ・科学技術の発達や生産力の発展を背景に、地球規模で世界の一体化と相互依存関係が強まっていったことを理解している。
【知識・理解】

3 単元の指導観

(1) 指導観

世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解させ、文化の多様性・複合性に関する認識を深めさせ、歴史を学ぶ意義を実感させたい。そのために、適切な学習主題を設定して探究する学習を一層重視して、世界史の学び方や歴史的思考力を培うようにする。多面的・多角的に考察したり、協同的に活動したりして、自分の考えをまとめ、考えを深化・発展させる能力を育成したい。

(2) 生徒の実態

生徒の多くは、歴史の授業を与えられた知識を覚えていくものと捉え、受け身の姿勢で学習に取り組むことが多かった。そのため、歴史を時間軸で把握することは得意であるが、歴史を横のつながりで見える力が不足している。また、全体的に地理的素養が不足している生徒も多いことから、ワークシートにおける作業や、グループワークなどを繰り返すことを重ね、基本事項の確認をしてきた。このことにより、年度当初に比べて能動的に学習に取り組む姿が見られるようになっている。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
第一次世界大戦前後の流れについて関心を高め、世界の一体化や相互依存関係を、歴史的観点から探究しようとしている。	第一次世界大戦やロシア革命に関して、経過や結果などを多面的・多角的に考察しながら、協同作業を通じて適切に表現している。	第一次世界大戦やロシア革命に関する情報や資料の収集などを行い、有用な情報を選択して活用し、図表にまとめている。	第一次世界大戦やロシア革命の動向や社会の特質、その後の影響を理解し、それらの知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（3時間）

次	時	学 習 内 容	評 価 規 準
1	1 本 時	バルカン半島の危機	【思考・判断・表現】 ・サライエヴォ事件に至る経過について、他者と協力しながら多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【関心・意欲・態度】 ・第一次世界大戦への興味・関心を高め、各国の動きを予測しようとしている。
2	2	第一次世界大戦の勃発	【資料活用の技能】 ・第一次世界大戦が起こる背景について、各種の資料から有用な情報を読み取り、効果的に活用している。 【知識・理解】 ・第一次世界大戦における各国の動向を理解している。
	3	戦時外交と総力戦 大戦の結果	【知識・理解】 ・イギリスの外交戦略と現在のパレスチナ問題の関連について理解している。 【思考・判断・表現】 ・第一次世界大戦の転換点や意義を、多面的・多角的に考察している。
3	4	ロシア革命	【思考・判断・表現】 ・二月革命、十月革命の動向について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【関心・意欲・態度】 ・社会主義国家の登場について関心を持ち、歴史的観点から探究しようとしている。
	5	ソヴィエト政権と戦時共産主義 ネップとソ連の成立	【思考・判断・表現】 ・対ソ干渉戦争に関して、当時の国際関係を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【知識・理解】 ・戦時共産主義や新経済政策の特質について理解している。

6 本時の目標（第1時）

- ・サライエヴォ事件に至る経過について、他者と協力しながら多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 **【思考・判断・表現】**
- ・第一次世界大戦への興味・関心を高め、各国の動きを予測しようとしている。 **【関心・意欲・態度】**

7 本時の指導（第1時）

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
導入 5分	ヨーロッパの国際関係の復習	・ヨーロッパの主要国を、三国協商と三国同盟のグループに分ける。 ・ファシヨダ事件など、国際関係の転換点を確認する。	・国名マグネットを活用して板書する。 ・バルカン半島の地理的な重要性も踏まえる。	

展 開	バルカン問題を理解する サライエヴォ事件に至る過程とその背景を考える サライエヴォ事件後の流れを予測する	・教科書を順番に音読する。 ・青年トルコ革命から第二次バルカン戦争に至る流れを理解する。 ・ワークノート(教科書準拠)の空欄補充をする。 ・「重要事項シート」に示した、①青年トルコ革命 ②バルカン同盟 ③第一次バルカン戦争 ④第二次バルカン戦争により、オーストリア、セルビア、ロシア、ドイツはどのような感情を抱いたのかを考え、各国ごとに「感情シート」(青／赤)にまとめる。 ・「感情シート」を班ごとに①青年トルコ革命 ③第一次バルカン戦争 ④第二次バルカン戦争の位置に貼り、説明する。 ・発表をノートにまとめる。 ・サライエヴォ事件に関する教師の説明を聞き、各国がどのように行動するかを予測する。	・^(注1)「重要事項シート①～④」を黒板に順に貼りながら説明する。 ①青年トルコ革命 →②バルカン同盟 →③第一次バルカン戦争 →④第二次バルカン戦争 ・4名の班をつくる。 ・①～④の出来事が、その国にとってプラスであれば^(注2)「感情シート」(赤)、マイナスであれば「感情シート」(青)に書かせる。 ・「感情シート」には理由だけを油性ペンで記入するように指示する。 ・「重要事項シート②バルカン同盟」は、黒板に貼ったままにし、思考の参考にさせる。 ・発表時間に注意する。 ・説明が不十分な時は教師が支援する。 ・次時で扱う「第一次世界大戦」の単元へつなげる視点が持てるよう考えさせる。	【思考・判断・表現】 ・サライエヴォ事件に至る経過について、他者と協力しながら多面的・多角的に考察し、適切に表現している。[発表内容] 【関心・意欲・態度】 ・第一次世界大戦への興味・関心を高め、各国の動きを予測しようとしている。[観察、リフレクションカード]
まとめ 5分	本時の振り返りと次時の準備	・リフレクションカードに記入する。		

(注1) 「重要事項シート」とは、A4判コピー用紙に本時の重要事項を記入したもの。教師が事前に作成。

(注2) 「感情シート」とは、A4判色付コピー用紙を用いて生徒が授業で作成するもの。